

第8回

横浜



まち

デザイン賞 2017

受賞活動・受賞景観集

地域まちづくり部門

自ら主体となって創意工夫し、
地域まちづくりを推進している活動

まちなみ景観部門

地域の個性と魅力をつくりだしている
まちなみや建築物等



横浜
人・まち
デザイン賞

横浜市

横浜・人・まち・デザイン賞について

表彰目的

横浜市内での地域まちづくりに関して特に著しい功績のあった活動や、都市景観の創造や保全に寄与したまちなみを構成する建築物等を顕彰して、魅力あるまちづくりをより広く進めていくことを目的としています。

選考基準

地域まちづくり部門

横浜市内における、おおむね3年以上の取組実績がある地域まちづくり活動の主体である団体を対象としています。また、表彰対象の活動を支援した個人または団体も表彰します。

- 1) 公共性(地域社会への貢献)が評価されるもの
- 2) 積極性が評価されるもの
- 3) 地域住民等の幅広い参加や他団体との連携が評価されるもの
- 4) 今後の活動の継続性・発展性が評価されるもの
- 5) 創意工夫が評価されるもの

まちなみ景観部門

横浜市内の「まちなみ」や「建築物等」で、おおむね10年以内に新しく造られたものや、歴史的建造物等再生されたものを対象としています。

- 1) 地域の個性と魅力にあふれた新しい都市景観の創造に寄与しているもの
- 2) まちの活性化に寄与し、賑わいのある都市景観を形成しているもの
- 3) 歴史的なまちなみ、及び自然景観の保全に寄与し、又はそれらと調和を保っているもの
- 4) 横浜らしさの演出に寄与しているもの
- 5) 都市景観と環境や福祉への配慮などの先進的な取組が調和しているもの

今回の応募状況

- || 募集方法 募集リーフレットを区役所、地区センター、各鉄道駅、市内大学等で配布
|| 応募状況 地域まちづくり部門:36通(34件)／まちなみ景観部門:125通(115件)

募集及び選考の流れについて

地域まちづくり部門

募集	平成28年5月2日～6月30日
一次選考	平成28年9月
応募活動の追加調査	平成28年9月～12月
二次選考	平成28年12月27日
活動の主体となる団体と、その取組を支援した個人または団体を表彰します	
表彰式	平成29年5月12日

まちなみ景観部門

募集	平成28年5月2日～6月30日
応募物件の調査	平成28年7月～10月
選考委員による現地調査	平成28年11月18日
選考	平成28年12月20日
景観づくりに貢献した事業者、設計者、施工者などを表彰します	

審査委員一覧

地域まちづくり部門

横浜市地域まちづくり推進委員会 表彰部会

山家 京子	神奈川大学工学部教授
奥村 玄	株式会社GENプランニング 代表取締役
川原 晋	首都大学東京都市環境学部 教授
田邊 寛子	まちひとこと総合計画室 代表
中山 岳志	市民委員

まちなみ景観部門

横浜市都市美対策審議会 表彰広報部会

佐々木 葉	早稲田大学創造理工学部社会環境工学科教授(景観)
金子 修司	横浜商工会議所
清水 靖枝	市民委員
鈴木 智恵子	エッセイスト
関 和明	関東学院大学建築・環境学部建築・環境学科教授(建築史)

開港以来、横浜は海外との交流を通して先進的な市民気質と多様な景観・文化を育んできました。そして、活発な市民活動や、豊かな水・緑と歴史、先進的な都市景観によってつくり上げられた横浜らしさにあふれるまちの魅力は、日々輝きを増し、現在の横浜の大きな財産となっています。

横浜市では、市民の皆様と協働して地域特性を活かした魅力あるまちをつくり育てるため、随所で行われているまちづくり活動の支援や良好な景観づくりに取り組んでいます。

今回「横浜・人・まち・デザイン賞」として表彰された方々のまちづくり活動やまちの魅力づくりは、まさにこの実践例です。その功績が多くの方に伝えられ、横浜の魅力に誇りを持った市民の皆様により、安心と活力ある将来へのまちづくりが一層進むことを願っています。共にこれからの横浜のまちづくりを進めていきましょう。



横浜市長 林 文子

第8回 横浜・人・まち・デザイン賞の選考にあたって

Ⅱ 地域まちづくり部門

横浜市地域まちづくり推進委員会
表彰部会長

山家 京子

第8回横浜・人・まち・デザイン賞の地域まちづくり部門には、自薦他薦合わせて36件の応募がありました。今回も多くのお応募をいただきましたことに感謝申し上げます。活動内容では、地域の助け合いや子育て支援の活動がやや多く見られました。また、まちのルールづくりや「ヨコハマ市民まち普請事業」から発展した活動もあり、横浜市の「地域まちづくり」のサポートが少しずつ実を結んでいるように思います。

選考では、全応募36件から重複や要件を満たさない活動を除き、34件を対象に審査を行いました。事前書類審査により23件を選び、その23件を対象に、投票及び議論を経て、6件の活動を表彰対象とすることを決定いたしました。

「地域まちづくり」への熱い思いが伝わる素晴らしい活動ばかりで、非常に難しい選考でした。審査は長丁場で大変でしたが、最後には委員の気持ちが一いつになったように思います。結果として、歴史や産業など地域の特性、そして地域の人材をうまく活用した活動が選ばれました。今回、惜しくも表彰対象とならなかった活動にも、新鮮なテーマで今後の発展が楽しみなものもあり、是非、次回また応募いただきたいと思います。

横浜で、このように多彩で充実したまちづくり活動が行われていることに、改めてうれしい驚きと心強さを感じました。すべての「地域まちづくり活動」に心から敬意を払うとともに、表彰対象となった活動にはその代表としてますます充実したものとされますよう期待いたします。

Ⅱ まちなみ景観部門

横浜市都市美対策審議会
表彰広報部会長

佐々木 葉

第8回を重ねた横浜・人・まち・デザイン賞のまちなみ景観部門は、総数にして125のお応募をいただき、重複を除くと115件を皆さまから推薦していただきました。前回に引き続き応募対象は市内広域におよび、さらに今回は規模の非常に大きなものから小さなものまで幅が広く、まちなみに対する皆さんの関心の多様さが伺えました。応募いただいた方々に改めて感謝申し上げます。

審査手順は、事務局による現地踏査を踏まえた115件の調査票をもとに審査員が候補を選び、バスで市内広域をめぐる現地確認と現場での意見交換も踏まえ、日を改めての審査を行い、8件という過去最多の授賞対象を決定しました。その内容は実にバラエティに富んでいます。歴史の継承、親密な住まいの場の形、住宅地に溶け込む教育施設、街の顔となる広場、日常の暮らしの一コマへの愛情、窓辺の魅力、ダイナミックなインフラの眺めなどなど。個別の建築物における周辺への配慮といった、狭い意味でのまちなみ形成を超えて、まさに、人とまちの交歓の接点となる空間や施設の素晴らしいデザインが集まりました。

横浜の景観まちづくりは、まちの多様さ、人々の活動の多様さを反映して、層が厚く、広域に広がり、同時にそこに横浜らしい洒落た感じやユーモアがある。そんなことを改めて感じる事ができました。この賞が回を重ねるごとにまちを魅力的にするアイデアの宝箱のようになっていることを、とても嬉しく思っています。

第8回 横浜・人・まち・デザイン賞 表彰対象地区一覧

地域まちづくり部門

- ① 農作業を通じた住民の見守りと交流 六ツ川野外サロンプロジェクト
- ② 保土ヶ谷の人・まち・文化を活かした街道のにぎわいづくり
- ③ 六浦東地区の人材マップを生かした地域ぐるみのまちづくり
- ④ 港北区を拠点としたみんなで子育てをする環境づくり
- ⑤ 中川駅前商業地区の安全で魅力的なまちづくり
- ⑥ 「まち工場による地域子育て支援」
～東山田準工業地域の取り組み～

まちなみ景観部門

- ① restaurant pétale de Sakura(レストラン ペタル ドゥ サクラ)
- ② みなまき みんなのひろば
- ③ minaGARDEN 十日市場
- ④ 「夢の舞う岡」と命名されたまちの玄関
- ⑤ 神奈川大学横浜キャンパス29号館(国際センター)
- ⑥ 新横浜公園から見た大熊川トラス橋
- ⑦ 旧開通合名会社の煉瓦壁
- ⑧ 横浜海岸教会



農作業を通じた住民の見守りと交流 六ツ川野外サロンプロジェクト

活動概要

地域で高齢化が進み、「見守る側」も高齢化によって負担が大きくなり、見守り手が欠員状態に陥りました。

そこで地域の高齢者が外に出るきっかけを作り、一緒に活動しながらお互いに「見守り合う」場を創出しようと、野菜栽培などの「土いじり」活動を行う野外サロンのプロジェクトを始めました。

この野外サロンにより、高齢者の見守り合いの関係や住民同士のつながりが生まれ、さらに地域活動へ関心を持つ人も増え、他のプロジェクトへの展開や担い手の拡大につながっています。

表彰理由

高齢者が家に閉じこもらず青空の下、農作業を通じてお互いに見守る場として開設された六ツ川野外サロン。その活動から始まった多様な展開は実に見応えがある。家庭や学校などから排出される生ゴミの堆肥化（環境保全）、農園で収穫した野菜を販売する「朝市サロン」（買い物支援・居場所・収益）、親子で参加する収穫祭（多世代交流）など、「農」の多面的な意義を改めて教えてくれる。それまで自治会活動に関心のなかった人が、サロンの活動に参加したことがきっかけで地域活動に関心を深め自治会役員に手を挙げるに至るエピソードは、野外サロンと地域の魅力的なつながりを物語っている。（奥村委員）



▲畑で栽培した野菜の収穫



▲畑作業後の住民同士の交流

◆活動団体 六ツ川野外サロン

◆活動を支援した個人または団体
まちづくりコーディネーター 内海 宏
まちづくりコーディネーター 山路 清貴

〓活動場所 南区別所七丁目

保土ケ谷の人・まち・文化を活かした 街道のにぎわいづくり

活動概要

保土ケ谷ならではの資源を活かし、魅力を創出、発信し、「いつまでも住み続けたいまち魅力ある保土ケ谷」の実現を目指しています。

地域の歴史的建物を巡る「保土ケ谷オープンヘリテイジ」、保土ケ谷産の野菜を街道沿いで販売する「朝市街道」、保土ケ谷の名産品を集めた市「ごうどいち」、多世代交流拠点「すぺーすほどほど」の展開、地域の小学生がまちを歩き、地域について学習するまちゼミなど、様々な事業を行っています。

地域に親しみを持つ住民が増え、街道沿いののにぎわいが創出されています。

表彰理由

「まちを想う人を増やす。保土ケ谷を想う人を増やす」をビジョンとして集まった市民活動団体と区によって構成されるネットワーク組織が、3つの部会に分かれて多様なテーマで活動を展開してきた。各団体のルーツは様々であり、その活動は歴史に原型を求めながらも保土ケ谷の「いま」の魅力を存分に伝えてくれる。街へ飛び出す活動が目白押しで、あたかも街中が学校のような様相である。歴史に学ぶというのは、このように豊かな活動につながっていくことかと目を開かせてくれる実践である。（奥村委員）



▲小学生が地域を学ぶ「ほどがやまちゼミ」



▲保土ケ谷名産品の朝市「ごうどいち」

◆活動団体 ほどがや 人・まち・文化振興会

〓活動場所 保土ケ谷区内旧東海道沿道及び周辺地域

〓活動団体 ホームページ <http://hodogaya-links.com>

六浦東地区の人材マップを生かした 地域ぐるみのまちづくり

活動概要

地域に大人と子どものふれあいの場が欲しいという地域の望みを受け、子どもたちとふれあうきっかけになるような、住民の特技や知識を登録する人材マップを作成しました。

人材マップに登録した「地域の人材」が持つ能力や得意分野などを発揮し、遊びや体験を通して子どもと大人が交流する場づくりに地域一体で取り組み、地域課題の解決を目指しています。

これらの活動によって、子どもから高齢者まで、世代を越えた地域住民の交流が生まれています。

表彰理由

子どもと地域の大人とのふれあいが、子どもの成長の糧になると考え、地域の大人の特技等を登録した「人材マップ」を作成し、20年間、第8版まで更新してきた素晴らしい活動である。さらに、人材マップの作成にとどまらず、登録メンバーが地域のお祭りに協力したり、「ヨコハマ市民まち普請事業」を活用して交流拠点を開設するなど、「人材マップ」を核とした多様な展開が期待できる。中高生などの若者も人材マップに加わり、若者が地域に関心を持ち活躍する展開も期待したい。

(川原委員)



▲地域の人が教える書道、詩吟教室



▲人材マップ改編の歴史

◆活動団体 六浦東・地域子育て会

〓活動場所 金沢区六浦東一丁目～三丁目、柳町

港北区を拠点とした みんなで子育てをする環境づくり

活動概要

子育てに励む家庭が地域で孤立しないよう、親子が共に学び合う場の提供や、地域のみんなで子育てをする環境づくりを行っています。

親と子のつどいの広場や地域子育て支援拠点の運営、子育てに関する情報発信など幅広い活動に取り組んでいます。いずれも子育て家庭の声や実態を把握しながら、支援を提供しています。

安心して子育てを行える環境づくりのみならず、地域活動の担い手育成にも貢献し、地域の支え合いの関係を作っています。

表彰理由

NPO法人びーのびーのは子育て支援施設の運営だけでなく「地域で共に育ち合う子育て環境づくり」をテーマに、子育ての「場」を活用して親子同士や地域の子育てボランティアなど子育てに関わる人の輪を広げており、子育ての悩みを相談できる人がいない親子の大きな支えとなっている。この活動が継続的に発展していくことで、漠然とした子育てに対する不安を解消し、世代を越えた地域の人々のつながりがより深まり地域の魅力が増すことを期待したい。

(中山委員)



▲ひろば利用者によるクリスマス会



※上記の他、港北区内に数か所拠点があります



▲トロピカルコンサートinバザー&フリマ

◆活動団体 特定非営利活動法人びーのびーの

◆活動を支援した個人または団体 特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ 東横浜

〓活動場所 港北区篠原北一丁目、大倉山三丁目ほか

〓活動団体ホームページ <http://www.bi-no.org/>

中川駅前商業地区の 安全で魅力的なまちづくり

活動概要

中川駅前商業地区で歩行者の安全を確保しようと歩道の整備に取り組みました。その後、活気が失われつつあった商業地区を再生させるため、まちの魅力向上を図り、住民が集う場にしようと活動を始めました。

まず、商業地区に住民同士の交流拠点やまちの情報を発信する案内所として、コミュニティカフェを開設し、その後、遊歩道や駅前広場に花壇、ベンチ、ステージ等を整備したことで、花と緑あふれる商業地区に生まれ変わりました。

地域の事業者や大学、様々なボランティア団体などとネットワークを築きながら、まちの活性化に貢献しています。

表彰理由

地域の人と一緒に、駅周辺の公共空間の安全性向上や魅力づくりのためにハードの改善を進める実行力、カフェの運営や祭りの開催によるコミュニティ形成へのまなざし、さらには地域活性化プランへの参画等、すなわち、ハード整備と運営の仕組みであるソフトの実践から将来ビジョンづくりまでを、堅実に展開させている総合力に感銘した。引き続き地元の方ならではのきめ細やかな気づきを活かし、多くの人が参加して楽しみつつ一緒にまちを作っていく取組を続けていただきたい。

(川原委員)



▲地元中学校による駅前階段アート



▲冬の「シンボル花壇」づくり

- ◆活動団体 特定非営利活動法人ぐるっと緑道
- ◆活動を支援した個人または団体 まちづくりコーディネーター
内海 宏
東京都市大学環境学部教授
室田 昌子
- ||活動場所 都筑区中川一丁目
- ||活動団体 ホームページ <http://guruttoryokudo.jp/>
<http://cafenakagawa.jp/>

「まち工場による地域子育て支援」 ～東山田準工業地域の取り組み～

活動概要

住宅と工場が混在する東山田準工業地域では、その地域性を活かし、小学校の校外学習として、工場でのものづくり体験などを行っています。

自分たちのまちの企業を知ってもらう機会を子どもたちに提供することで、子どもたちの心が育まれるとともに、ものづくりや企業に対する興味や関心が生まれ、職業の選択の幅が広がります。

こうした取組によって、子どもたちの教養育成のみならず、その学びの成果を通じて住民と企業の相互理解と交流が図られています。

表彰理由

準工業地域の町工場が少しずつ移転し、数年前から住宅が増えてきた。住宅と工場が混在する場所ならではの課題を、地元企業のCSR活動をきっかけに、住民・学校・地域・企業と連携しながら、「地域子育て」働きやすく住みやすいまちづくりを目指して展開していることが高く評価できる。

「東山田工業団地防災マップ」を地元中学生とともに作成、オープンファクトリーの「こどもまち探検」を東山田小学校の3年生に実施するなど、働く姿を子どもたちに見せながら顔の見える関係づくりを行うことで、家庭や学校で教えきれないところを地域が担い、子どもたちの人生の選択肢を広げることにつながる。今後の着地型観光や大人のまち探検への発展も期待したい。

(田邊委員)



▲「こどもまち探検」で企業を訪問



▲地元企業にものづくりを学ぶ

- ◆活動団体 一般社団法人 横浜もの・まち・ひとづくり
- ◆活動を支援した個人または団体 まちづくりコーディネーター
大木 淳
美里橋サークル
- ||活動場所 都筑区東山田四丁目
- ||活動団体 ホームページ <http://www.2080.jp>
<https://www.facebook.com/nimaruhachimaru/>

restaurant pétale de Sakura (レストラン ペタル ドゥ サクラ)

概要

「相鉄沿線名店プロジェクト」の誘致第1号店として相鉄いずみ野線弥生台駅前に2014(平成26)年に新築されたフレンチレストランです。地元食材を使用するなど、「食」で地域に根ざした活動を行っています。落ち着いた色の外壁には厨房を覗くことのできる小窓が設けられ、内部の様子が外へ漏れ出しています。

所在地

泉区弥生台

講評

道路に面した何の装飾も施していない無彩色な壁。その壁に小窓が…。その小窓からはキッチンが見える。小さな子どもでも覗けるように低い位置につけられたのであろう。そんな心遣いが建物を優しくさせる。

店の名前にもある「サクラ」が、その時期になるとそれは見事に生かされる。弥生台駅の桜をも借景にしたその窓からの景色は、フレンチレストランと日本の美が融合、まさに計算しつくされた建物である。

(清水委員)



- 事業者: 相鉄ホールディングス株式会社
- 事業者: シェフ 難波 秀行
- 建築工事設計・施工: 株式会社NB建設
- 内装工事設計: 前田篤伸建築都市設計事務所
- 内装工事施工: 株式会社アートプロジェクト

みなまき みんなのひろば

概要

『相鉄いずみ野線沿線 環境未来都市』の「南万騎が原駅周辺リノベーションプロジェクト」の一環として2015(平成27)年に整備された駅前広場です。以前の急な階段や坂道が駅と街を分断していた状態を、緩やかなスロープを通すことで解消し、またその他の部分に段状の広場空間を設けました。段状の空間はイベント活動や休憩スペース、子どもたちの遊び場など多様な使い方ができる街の玄関となっています。

所在地

旭区柏町

講評

相鉄いずみ野線南万騎が原駅前の広場として、約4mの高低差のある場所に、「棚田」のような段差を設けて、小さな広場をいくつも重ねた、魅力的なオープンスペースが生まれた。広場の舗装として埋め込まれたタイルのいくつかには、地域の子もたちが参加したワークショップで見つけたまちのメモリーが刻まれている。この駅前広場を起点としながら、住民、行政、企業、大学などの多様な利用者や関係者が協働しつつ、まち全体のリノベーションが進行中である。

(関委員)



- 事業者: 株式会社相鉄アーバンクリエイツ
- 基本設計: 株式会社スタジオ ゲンクマガイ
- 実施設計・設計監理: 日本都市整備株式会社
- 設計監修: 株式会社INA新建築研究所
- 施工者(外構・土木工事): 馬淵建設株式会社
- 施工者(植栽工事): 株式会社富士植木
- 施工者(サイン工事): 株式会社ファイブス
- 管理運営: 株式会社相鉄ビルマネジメント

h2>minaGARDEN 十日市場

h3>概要

「みんなのエコプロジェクト(横浜市脱温暖化モデル住宅推進事業)」として、環境配慮型の木造2階建て住宅11戸を2012(平成24)年に整備したものです。全体計画と各エリアの事業者を公募による2段階で選定し、50年の定期借地権付戸建分譲住宅として販売しました。エリアごとに建物の特徴は異なるものの、中央の共用庭を取り囲むように建つ住宅と庭が一体的な景観をつくっています。

h3>所在地

緑区十日市場町

h3>講評

周辺の住宅地のなかで、この区画の雰囲気がいちがうのがすぐわかる。やや起伏のある区画全体は大きく3つのエリアからなり、全体計画と3タイプの住宅の設計者も複数からなる。環境配慮型の2階建て独立住宅11棟が、中央の共用空間(市有地「みんなの庭」)を囲むように、少しずつ角度を変えて配置され、敷地境界に塀や擁壁を作らず、住戸相互にとっても周辺に対しても開放感がある。こうした住宅地のあり方が、今後広がっていくことを望みたい。(関委員)



写真提供:小川重雄

- 企画:横浜市
- 売り主・コーディネイト:横浜市住宅供給公社
- マスターアーキテクト:飯田善彦 小林克弘
- マスタープラン:ナイス・飯田善彦建築工房・岡山建設設計建設共同体
- マスタープラン設計協力:アトリエU都市・地域空間計画室
- マスタープラン設計協力:S2 Design and Planning
- Aエリア 設計・施工:ナイス・飯田善彦建築工房・岡山建設設計建設共同体
- Bエリア 設計:横河健/横河設計工房
- Bエリア 施工:奈良建設株式会社
- Cエリア 設計:株式会社ユー・アール・ユー総合研究所
- Cエリア 施工:株式会社白井組
- 実証実験企画・実施:高間三郎 加用現空 鈴木信恵

h2>「夢の舞う岡」と命名されたまちの玄関

h3>概要

「ヨコハマ市民まち普請事業」で2006(平成18)年に整備された舞岡バス停前の傾斜地の緑化事業です。雑草と看板に覆われ土も流出していた傾斜地は、地元発意によって花壇や展望台、ベンチなどのある地域の人々が憩うことのできる空間に生まれ変わりました。富士を望む展望台には、地域の歴史を解説した短冊があり、階段にはこどもたちが作った絵タイルが埋め込まれています。

h3>所在地

戸塚区舞岡町

h3>講評

人の体と同様に、地域にもツボというものがある。点であってそこエネルギーが注がれると全体が元気になるような所である。「ヨコハマ市民まち普請事業」によるこの場所は、まさに地域のツボをついている。地形の変曲点、交通の結節点、火の見櫓と眺望、六地藏もひかえている。櫓の麓の小さなアルコーブはバス停というより、ほっとひと息入れる場所に。見晴らし台やタイルがはめ込まれた段々は、坂の上り下りを楽しくする。目の付け所と普請のアイデアは街の多様な景観整備の可能性を教えてくれる。(佐々木委員)



- 事業者:舞岡第二町内会
- 設計者:株式会社あいランドスケープ研究所
- 施工者:株式会社田澤園

神奈川大学横浜キャンパス29号館 (国際センター)

概要

海を越えた学術交流・学生交流の拠点施設として2015(平成27)年に竣工したRC造の地下階と木造の地上階からなる2階建ての建物です。「日本らしい国際センター」をテーマに、準耐火建築物でありながらも材料に木を採用しています。計画・設計には学内の建築学科の教員と卒業生が携わりました。

所在地

神奈川区六角橋

講評

歴史ある大学キャンパスが周辺の住宅地へと広がる中で誕生した国際センター(29号館)は、一見大学の建物らしからぬスケールと木を使った温もりあるデザインによって、街並みに調和している。

高さを周りの住宅と同じ2階建てに揃え、丘の傾斜とY字路の間の敷地という特性を巧みに利用し、奥行き感あるすっきりした外観となった。コーナー部の細長い窓に使われた木はシンプルな建物のアクセントだが、夕暮れともなると、窓から漏れる光に室内にふんだんに使われている木材が浮かび上がり、昼間とは別の^{かお}貌を見せて美しい。(鈴木委員)



- 事業者: 学校法人 神奈川大学
- 基本構想・デザイン監修: 神奈川大学工学部建築学科／横浜キャンパスマスタープラン推進チーム (重村力・内田青蔵・山家京子・曾我部昌史・中井邦夫)
- 総合監理: 学校法人 神奈川大学 施設部キャンパス整備課
- 設計・工事監理: 有限会社 鈴木アトリエ 一級建築士事務所
- 施工者: 岡山建設 株式会社

新横浜公園から見た大熊川トラス橋

概要

【大熊川トラス橋】

2017(平成29)年3月に開通した高速神奈川7号横浜北線の大熊川トラス橋は、鶴見川・大熊川・江川の合流地点を渡河する橋梁158mの上下2層式の橋梁です。平坦な丘陵との調和や隣接する橋梁との連続性確保などの観点から、トラス橋の橋梁形式としており、色彩はシルキーホワイトとし、軽快な印象となっています。

【新横浜公園】

1998(平成10)年に開園した面積70.4haの市内最大の運動公園で、鶴見川多目的遊水地を兼ねています。1994(平成4)年から継続的に整備を進め、2014(平成26)年の球技場、2015(平成27)年の自然再生エリアの整備をもって概成しました。

所在地

港北区新羽町(大熊川トラス橋)／小机町(新横浜公園)

講評

首都高速道路神奈川7号横浜北線の大熊川トラス橋は鶴見川沿いの景観との調和を謳って架けられた橋である。

新横浜公園から眺めるトラス橋は、公園の緑や水辺の向こうに白いダイナミックな構造美を見せて、田園風景を近未来的な空間へと一気に変貌させた。見る者を圧倒する土木構造物の迫力ある姿が間近に見える公園は珍しい。発展し続ける新横浜の未来像のようなトラス橋が、新横浜公園の豊かな緑や鶴見川の水辺といつまでも共存し、次世代の都市と自然を結ぶ架け橋となることを願う。(鈴木委員)



【大熊川トラス橋】

- 事業者: 首都高速道路株式会社神奈川建設局
- 設計者(上部・下部構造): 株式会社千代田コンサルタント
- 設計・施工者(上部構造):
IHI・駒井ハルテック特定建設工事共同企業体
- 設計・施工者(下部構造): 株式会社フジタ
- 設計・施工者(下部構造): 清水・前田特定建設工事共同企業体

【新横浜公園】

- 事業者: 横浜市
- 指定管理者: 横浜市体育協会・管理JV(ハリマピステム・東京ビジネスサービス・シンティ警備・西田装美)共同事業体

旧開通合名会社の煉瓦壁

概要

明治時代に建てられたと推定される「開通合名会社」の社屋の一部であると考えられている煉瓦壁を保存改修し、2015(平成27)年に公開しました。同地に建っていた建物の解体時に発見されたこの煉瓦壁は、所有者の意向により残されることとなりました。この遺構は1階中央の出入口と右側の窓部分及び右側側面の壁の一部であると考えられています。

所在地

中区北仲通

講評

数年前の火災により発見された明治時代の煉瓦造の建物遺構が横浜を愛する所有者の思いと努力により部分保存された素晴らしい事例として評価した。この遺構は関東大震災により壊れた煉瓦造の建物の一部が店舗として使われていたものである。今回保存された煉瓦の外壁やアーチは貴重な歴史遺構として現状のまま保存され、この地の歴史や街の成り立ちを後世に伝える写真資料等を記した銘板と共に歴史の生きた証人として街行く人々に語り続けてくれることだろう。

(金子委員)



- 事業者: 有限会社日太刀商事
- 調査・設計・監理: 株式会社ユー・エス・シー
- 補強工事施工: 有限会社レイブリックス

横浜海岸教会

概要

現在の会堂は、1875(明治8)年に創建された建物が関東大震災で倒壊後、1933(昭和8)年に献堂されたものです。築後80年が経過した2013(平成25)年から建物の老朽化対策と耐震補強、バリアフリー化のため改修工事を実施し、2階の礼拝堂へ行くためのエレベーターが設置されるなどし、2015(平成27)年に再生しました。

所在地

中区日本大通

講評

歴史的建築物を景観に配慮しつつ耐震化とバリアフリー化を実現した好例で、横浜の開港の歴史を今に伝えるエリアに有り、大桟橋、開港広場、モダンイズム建築の皓歯である坂倉準三設計のシルクセンターなど一連の建物と並ぶ、我が国最初の日本人のためのプロテスタント教会である。高齢化する信者のために設置したエレベーターは景観に配慮され、シンボリックで愛すべきゴシック様式の魅力的な教会の姿を後世に残すことが出来た。

(金子委員)



- 事業者: (宗教法人)日本キリスト教会 横浜海岸教会
- 設計者: 無名設計システム
- 耐震設計: 株式会社KR建築研究所
- 施工者: 北野建設株式会社

これまでの受賞作品一覧

	地域まちづくり部門	まちなみ景観部門
第1回	●環境エネルギー館の整備・運営(鶴見区) ●横浜駅西口振興活動(西区) ●都心部を中心にした歴史を生かしたまちづくり啓発活動(中区、西区) ●仲町台駅周辺まちづくり啓発活動(都筑区) ●横浜駅西口駅前再開発事業(西区) ●元町仲通りまちづくり活動(中区)	●横浜ワールドポーターズ、ナビオス横浜と運河パーク(中区新港町) ●山手111番館とローズガーデン(中区山手町) ●洗手亭(中区山下町) ●大原隧道(南区清水ヶ丘) ●横浜ベイサイドマリナー(金沢区白帆町) ●富岡川せせらぎ緑道(金沢区富岡西)
第2回	●鶴見西口オープンカフェの運営(鶴見区) ●横浜弘明寺商店街のまちづくり活動(南区) ●新横浜町内会のまちづくり活動(港北区) ●モザイクモール港北の建設と運営(都筑区) ●都筑民家園を巡る活動(都筑区)	●カトリック横浜司教館(中区山手町) ●横浜情報文化センターと横浜地方・簡易裁判所(中区日本大通) ●グランノア港北の丘(都筑区大丸町) ●辺瀾橋下流の水辺拠点(栄区上郷町) ●中丸家長屋門とその周辺(泉区新橋町)
第3回	●自然を生かした公園でのプレイパーク運営(神奈川区) ●東神奈川駅東口地区市街地再開発事業の実現(神奈川区) ●商店街の空き店舗活用による地域コミュニティ活動(保土ヶ谷区) ●旭ジャズまつりの企画・運営(旭区) ●横浜自然観察の森の案内・調査・環境管理活動(栄区) ●都市防災の研究・提言・知識の普及活動(全市)	●日産自動車横浜工場ゲストホール・エンジン博物館(神奈川区宝町) ●横浜港大さん橋国際客船ターミナル(中区海岸通) ●日本郵船歴史博物館(中区海岸通) ●馬車道のガス灯(中区港町～本町) ●フェリス女学院中学校・高等学校1号館(中区山手町) ●マーマシのほら保育園(港北区篠原町) ●天王森泉公園(泉区和泉町)
第4回	●まちづくりのルールを作成(神奈川区) ●災害に強いまちづくり(西区) ●障害者が生活しやすい環境づくり(中区) ●みんなに愛されるストリート(中区) ●まちづくりの交流・情報発信拠点(港南区) ●いきいき、楽しく環境活動(金沢区)	●旧バーナード邸(中区本牧元町) ●二代目横浜駅遺構(ロワール横濱レムナンツ)(西区高島) ●ZAIM(ザイム)(中区日本大通) ●横濱媽祖廟(中区山下町) ●荒井沢市民の森(栄区公田町) ●日本大通りとオープンカフェ(中区日本大通)
第5回	●鴨居原市民の森を憩いの森にする活動(緑区) ●野毛大道芸でまちおこし(中区) ●助け合いの精神で港南エリアを中心とした住民生活をサポート(港南区) ●つづきのみんなで元気なまちづくり(都筑区) ●山下公園のコンビニエンスストアで子育て支援活動(中区) ●鶴見川流域での清掃・学習・人材育成活動(鶴見区ほか)	●ストロングビル(中区山下町) ●日ノ出スタジオ・黄金スタジオ(中区日ノ出町・中区黄金町) ●鶴見川河口干潟「貝殻浜」(鶴見区生麦5丁目) ●アメリカ山公園(中区山手町) ●はまみらいウォーク(西区高島2丁目～1丁目) ●元町ペットバー(中区元町)
第6回	●新治市民の森一帯の里山景観と生物多様性を守り育てる活動(緑区) ●初黄・日ノ出町地区のアートによる安全・安心のまちづくり(中区) ●寺尾地区で身近なまちの暮らしを豊かにする活動(鶴見区) ●港南区の歴史を後世へ伝承する活動(港南区) ●高齢化が進む西柴を生き生きと暮らせる街にしたい(金沢区) ●六角橋商店街の新たな企画 空き店舗を活用したドッキリヤミ市場(神奈川区) ●下和泉地区での交通不便を解消 コミュニティバスの自主運営活動(泉区)	●ヨコハマアパートメント(西区西戸部町) ●防火帯建築を活用した吉田町のまちなみ(中区吉田町) ●日産グローバル本社NISSAN ウォーク・横浜三井ビルディング 公開空地(西区みなとみらい・西区高島1丁目) ●ザ・テラス／パークサイドカフェ(都筑区仲町台) ●BankART Studio NYK創造空間 万国橋SOKO(中区海岸通) ●ラ・バンクド・ロア(中区山下町) ●山手ライナー(神奈川中央交通11系統(保土ヶ谷駅～桜木町駅) 60系統(磯子駅～南区役所))
第7回	●京浜臨海部等での「トンボはドコまで飛ぶかプロジェクト」 (鶴見区、神奈川区) ●旭中央地区のコミュニティバス「四季めぐり号」の運行(旭区) ●金沢区でつくられる風景 ふるさと大道村(金沢区) ●環境意識を高め、歴史も知る大豆戸菊名打ち水大作戦(港北区) ●深谷台地域でのエリアマネジメント 地域課題の解決を实践(戸塚区) ●泉区いちょう団地での生活相談や学習支援 多文化共生の实践(泉区)	●霞橋(中区新山下) ●横浜地方気象台とブラフ99ガーデン(中区山手町) ●神奈川大学横浜キャンパス3号館(神奈川区六角橋) ●横浜ベイクォーター(神奈川区金港町) ●旧伊藤博文金沢別邸(金沢区野島町) ●横浜公園(中区横浜公園) ●東横フラワー緑道(東急東横線 東白楽駅から横浜駅周辺)

連絡先

地域まちづくり部門:横浜市都市整備局地域まちづくり課

〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL:045-671-2679 FAX:045-663-8641

まちなみ景観部門:横浜市都市整備局景観調整課

〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL:045-671-3470 FAX:045-663-8641

